

特定非営利活動(NPO)法人

仙台敬老奉仕会

<http://sendaikeirou.web.fc2.com>

第82回研修会 ご報告

- ◆ 日時 : 2024年3月17日(日) 15時
- ◆ 会場 : 仙台市福祉プラザ 第一会議室
- ◆ 講師 : 特別養護老人ホーム 春圃苑
苑長 阿部勝造氏
- ◆ 演題 : 春圃苑の介護ボランティアの取組み
- ◆ 司会 : 鈴木和美理事

講演要旨:

春圃苑は寄り添いボランティアを准職員として位置づけられています。

ボランティアグループ「たんぽぽ」の活動は毎週木曜日 10時~12時まで高齢者の生きがいづくりをされてきました。

介護ボランティアを受け入れた事によって、介護の向上と職員不足の補填ができた。

介護ボランティアを受入れる事によって入所者様の尊厳を守る事ができた。

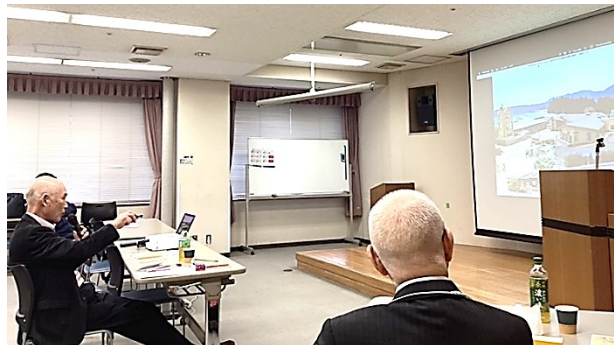
たんぽぽグループの黄色いエプロン姿によって苑内が明るくなり職員の人間性の涵養に繋がった。ボランティアをされている人は、仲間と会えるのが楽しみで、通えるうちは続けたいと話されていました。

阿部勝造苑長は寄り添いボランティアを受け入れて、利用者に喜ばれ、家族に喜ばれ、地域に頼られる施設となれば介護の仕事に働き甲斐を感じると話されていました。

会場風景 1



会場風景 2



2024年度通常総会

日時 2024年5月6日(月)祝日 14時~
会場 仙台市福祉プラザ 第一会議室

第83回研修会

日時 2024年5月6日(月)祝日 15時~
会場 仙台市福祉プラザ 第一会議室
講師 NPO法人仙台敬老奉仕会 吉永馨理事長
演題 時代の変遷にどう対応するのか
司会 鈴木和美理事
入場料 無料 予約不要 どなたでも参加できます

介護現場に求められる認知症のケア

日本認知症予防学会 東京都支部会報 2020.4.15 より
日本認知症予防学会 東京都支部事務局担当
NPO法人CIM ネット理事 大津陽子

私の看護活動

私は、相談員であり看護師のカウンセラーとして認知症ケアにボランティアとして携わっています。

相談員(カウンセラー)のかかわり方はいろいろな手技があると思いますが、私は主に傾聴しフィードバックし、悩みを共有して明確にしながら看護師としてアドバイスし、共に問題解決や問題確認をします。重要なポイントは一緒に考えることです。答えのでないことも多いです。相談者が孤立せずに看護師の私と一緒に悩みを明確にし、できることとできないことを確認し、できることは実践していきます。もう一つのポイントは、輝いていた時間を振り返り共に追体験することです。私は相談者の方の人生を追体験させていただき、ご本人の宝物の経験を共有させていただきます。このような面談を通して今の状況のプラス面を確

認し、自分らしく生きるとは・・・を見出していきます。

面談は約1時間、この間の会話で笑顔を取り戻し、生き生きとした生来の自分を取り戻されます。怖い顔で、元氣なく挨拶をかわし、面接時間が終わると表情が変わり、生気を取戻しにこここしてお礼を言う豊かさが戻っています。付き添ってきたご家族の表情も変わります。

相談内容には「どのように死ぬのか? 迷惑をかけたくない。チューブがいっぱいつけられるのは嫌だ。薬が多くて減らしたい。医師の言うことが納得できない。便秘や下痢・不眠・痛み・体力低下・家族や友人との関係・喪失感・不安・財産問題」など健康相談や死生観・人間関係やグリーフケア・資産管理など様々な相談があります。このような相談対応の中で、専門職である看護師としてのアドバイスと経験がとても有効であると感じております。適切なアドバイスにより相談者と相談員との信頼関係が構築できます。

私は、循環器科を経て救急医療の現場に15年以上在籍し、地域医療支援病院において在宅医療・退院調整に携わってきました。患者さんやご家族が教わることも多くこのような経験が相談対応に於いて共感される方も多く役立っています。その後、「がん電話相談」、と総合診療科における患者・家族の相談員として約5年間勤務し、現在は、患者さんご家族のニーズに応える形で前述のような高齢者相談のボランティア活動をさせて頂いております。

一方、平成24年より介護職員の研修に関り、看護師として介護職とケアを共に実践するにあたって各々の専門領域における役割分担の在り方を思索してきました。看護と介護が共に働く現場において共通認識・情報共有は欠かせません。

この度認知症予防学会東京都支部に事務局として関わることになり「認知症ケア」はどうあればいいのか?

特に認知症患者さんのケアに携わる家族と介護職員・医療関係者との共通認識と情報共有の必要性と環境整備の必要性を再認識しています。

さて、環境整備・共通認識・情報共有という視点で見ると、認知症ケアの現場は、介護施設・あるいは在宅において、認知症患者さんのケアに携わる介護職員や家族は24時間継続したかかわりとな

ります。介護者が1人で抱えるには介護者自身の身も心も壊れそうになります。常に「これでいいのか? どうしたらいいの? ...言わなければよかった。もっと聞いてあげれば...でもできない。なぜ、こんなことになったのか? だんだん変わっていくのが怖い。」など不安と苦悩と疲労の日々が続くのが介護の日常です。人的資源不足の現状から情報共有や共通認識がなかなかされない現状の中で、様々な形で介護現場である施設や自宅や病院でケアが提供されています。しかしながら、なかなかご本人の苦悩に寄り添うことの継続ができません。患者さんたちは、お一人ずつ抱えている苦悩は、家族には負担をかけるから、なかなか分かってもらえないから、認知症になる前の尊厳を保ちたいから、言えません。

そして介護職員や看護師には自分の人生の価値観を説明しているだけの時間をもらえません。どこまで話したか忘れてしまいます。しかし私は誰・ここはどこ・どうなっているの? もやもやした不安が、ふとしたタイミングで頭をもたげます。

日本看護協会から看護職能団体として認知症ケアに関わる全ての看護職に向け基礎基本を学べる入門書として『認知症ケアガイドブック』が作成されています。また、専門職看護師としての必要な知識と技術以外に認知症患者を取り巻く環境整備活動の参考書として、吉永先生の著書が挙げられます。私が理事を務めさせていただいている CIM ネットという NPO 組織で吉永先生の言われる「寄り添いボランティア」活動を広げたいと思います。「寄り添いボランティア」の支援により、多くの高齢者の孤独を救済できるのではないかと考えます。

日本にボランティア文化を
増補版
吉永 馨
誰かの役に立ちたい、
そう思っている貴方!
寄り添いボランティアを
なさいませんか
定価770円(税込)
お問い合わせ
NPO法人 CIM ネット
〒102-0032 東京都中央区八丁堀3-28-14 熊田ビル5F
TEL 03-5561-0000
FAX 03-5561-0001
sendaikeirou@yahoo.co.jp

文責 仙台敬老奉仕会理事 鈴木 和美

「仙台敬老奉仕会」事務局

- 〒980-0801 仙台市青葉区木町通
2丁目5-18 大熊ビル3階
- TEL/FAX 022-725-7284
- e-mail sendaikeirou@yahoo.co.jp